

自己の生き方を探究するヒューマン・セミナーの構想

○佐々木 聡也、稲垣 道子、中村 功佑、小原 翔太、小笠原 一隆、鈴木 駿

1 研究主題設定の理由

本校のヒューマン・セミナーでは、「生徒自らが課題を見つけ、その課題を追究していく中で、自己の生き方を考える」ことを通して、学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」を理想とする人間像とし、それに迫ることを目的としている。特に、ヒューマン・セミナーにおいては、「人として生きる上での理想の追究」という側面を重視してきた。

総合的な学習の時間では、自己の生き方を考えることが目指されるだけでなく、多様な現代的な諸課題を扱う場面があり、生徒が将来の社会を自分たちで創造する力の育成が求められる。これまでのヒューマン・セミナーで課題であった自分たちの生活する現実の地域との関わり方について、地域を捉え直し、その地域に存在する課題解決に向けて、当事者意識をもって主体的に取り組む社会的な側面は改善が図られてきた。自らの人生を創造できるとともに、社会に参画し社会を創造できる生徒の育成を目指し、「探究的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

2 総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力

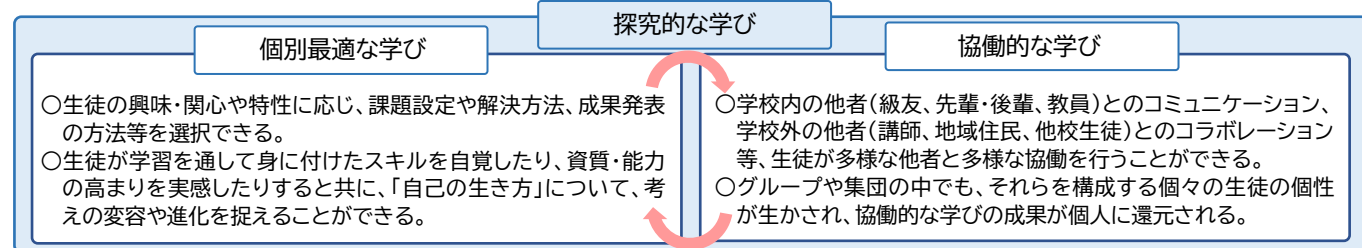
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○探究的な学習のよさを理解できる力 ○課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、概念形成する力	○自らが見いだした問いを探究的な見方・考え方を働かせて解決を図る力 ○よりよく課題を解決し、自己の生き方を問い続ける力	○探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度 ○互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度

資質・能力の育成は、知識及び技能の量や質に支えられて、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見いだしていく。また、社会や世界と関わりの中で学ぶことへの興味を高めたり、思考や判断、表現等を伴う学習活動を行ったりすることを通して、生徒が新たな知識や技能を得ようとしたり、知識や技能を確かなものとして習得したりしていく。生徒は、それらの知識や技能を、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中で活用して思考することを通して、知識や技能をより確かなものとして習得するとともに、思考力、判断力、表現力等を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、それによりさらに思考力、判断力、表現力等も高まる。また、学びに向かう力、人間性等は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。習得した知識や技能、育成された思考力、判断力、表現力等を、新たな学びに向かったり、学びを人生や社会に活かそうとしたりする力として育んでいくことが求められる。

3 研究内容

視点① 個別最適な学びと協働的な学び

生徒一人一人が実社会の中から地域課題や注力したいテーマを見だし、その課題やテーマに対して自己の興味・関心や特性を生かして向き合い、それらの解決に向け学校内外の様々な他者と関わりながら、自己の生き方を問い続けるという本校のヒューマン・セミナーの学びは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、社会に開かれた教育課程を実現する上で、重要な役割を果たしていると考えられる。以下に、本校のヒューマン・セミナーにおける「個別最適な学び」と「協働的な学び」の捉えを示す。



視点② 教科等横断的資質・能力の育成

総合的な学習の時間では、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせること、各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、必要に応じて総合的に活用することが求められる。特に実社会・実生活における問題は、複雑化・多様化しており、特定の見方・考え方で事象を捉え解決に向かうことは困難である。扱う事象や解決しようとする方向性、また生徒の特性などに応じて、それぞれの生徒が目的に合わせて意識的に各教科等における見方・考え方を働かせたり、資質・能力を活用できるようになることを目指す。加えて、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることで、特定の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉え、探究することを通して「自己の生き方」を問い続けられる生徒の育成を目指す。これらの実現に向け、総合的な学習の時間と各教科の内容、スキル、見方・考え方等相互の関わりを意識して、意図的な連携を図っていく。

視点③ 小中連携を意識したカリキュラム・マネジメント

小中連携においては、①資質・能力、②表現スキル、③地域学習の三点を連携の柱としてカリキュラム・マネジメントを行い、互いに授業参観等をし合っている。特に②表現スキルについて、附属小学校では「発表する」、「発表を聴く」、「質問を出す」、「質問に応える」などの表現スキル(Closed Skills)を身に付けている。中学校ではこれらをもとにしながら、より相手を意識した「議論する」、「議論をコーディネートする」といった表現スキル(Open Skills)を育成することを目指す。また小学校では、学年ごとに「問う力」「追究する力」「表現する力」「見つめる力」のように重点的に資質・能力を育成するものとしている。中学校においても、「自ら問いを見いだす」等の文言が育成を目指す資質・能力に明示されているが、文言と共に「児童・生徒の具体的な姿」を共有し、連携を深めたい。